

ストーリー描写課題における日本語学習者の事態把握の表現方法
—視点表現に代わる主観的表現に着目して—

The Way Japanese L2 Learners Express Construal in Their Written Storytelling:
Focusing on Expressions of Subjectivity as Alternatives to Expressions of Viewpoint

矢吹ソウ典子, ヨーク大学
Noriko Yabuki-Soh
York University

奥野由紀子, 東京都立大学
Yukiko Okuno
Tokyo Metropolitan University

1. はじめに

ある出来事を言語で表現する際、対象となる事態を主観的に表現するか、客観的に表現するかは言語によって異なるが、L1 日本語話者は一般に主観的把握を好み、受身形や授受動詞などの視点表現を用いることで一定の人物の視点から表すと言われている。一方、日本語学習者の語りは視点表現が少なく視点が人物間を移動することが指摘されているが、学習者は別の方法でより主観的に事態を把握しているのではないだろうか。本研究では、ストーリー描写における日本語学習者の主観的表現を、二種類のストーリーに基づき L1 ごとに比較分析する。

2. 先行研究

2.1 主観的把握・客観的把握

Ikegami (2016) の事態把握 (construal) の概念によれば、事態の外に身を置く客観的把握に対し、日本語話者は一般に、事態の内に身を置いて主観的に把握し、その場にいなくてもあたかもそこに臨場する当事者であるかのように事態を把握する傾向があるとしている。例えば、英語で “Someone stole my wallet” のように行为主体者を主語とする客観的な能動文を使用する場面で、日本語では「さいふを盗まれました」のような話し手が主観的に事態を把握した受動文が好まれる。同様に日本語学習者が産出する文には「だれかが私の足をふんだ」のような能動文が見られることがあるが、日本語では「だれかに足をふまれた」のような主観的な受動文が「好まれる言い回し」(池上 2006 他) になる。

2.2 日本語学習者の視点表現

日本語学習者の視点表現に関する先行研究では、例えば矢吹ソウ (2017) は漫画のストーリーを説明した作文中での視点に関するさまざまな表現を比較分析した。南 (2018 他) においても、ストーリー描写課題で L1 日本語話者と学習者が時制と態をどう使用しどの視点から事態を捉えているかを分析している。これらの研究では、L1 日本語話者は受身形や授受・受益表現などを用いて一定の登場人物に視点を置き主観的に事態を把握するのに対し、学習者は同様の表現の使用が少ないため、視点が人物間を移動する傾向があることが明らかになっている。

2.3 日本語学習者の情意・評価表現

奥野 (2018) ではストーリー描写課題について異なる L1 の学習者を対象に分析し、登場人物が被害を受けた場面を中国語話者は受身形を用いて表現、他の

L1 話者は主に能動形を使用することを示し、その際「残念でした」などの情意表現を使う傾向を指摘している。また、奥野他（2019）では、日本語学習者の日本語のデータおよび学習者の L1 でのストーリー描写のデータを収集し比較分析した結果、受身形と能動形の使用傾向が日本語と L1 で同様であること、ドイツ語話者は受身形の使用が低く言語による受身表現の違いが関わっていることを示唆し、また情意表現については L1 と L2 で異なる可能性も報告している。さらに、矢吹ソウ・奥野（2020）では、ストーリー描写課題の産出データを 6 つの異なる L1 の学習者を対象に分析したところ、登場人物が被害を受ける場面を表す際、学習者はその L1 に関わらず多くの情意・評価表現を使用していることがわかった。そして、学習者は受身形などの文法的な表現の代わりに情意や評価を示す副詞などの語彙的な表現を用いる中間言語が存在する可能性を示した。

3. 本研究の目的と使用データ

本研究では、日本語学習者の事態把握の表現方法について、視点表現に代わる主観的表現にも着目し、どのような場面でのどのような表現を使用しているかを L1 ごとに明らかにすることを目的とする。データには、国立国語研究所公開の『多言語母語の日本語学習者横断コーパス (I-JAS)』の二種類のストーリーテリングの「書く」課題の産出データを使い、L1 日本語話者、韓国語・中国語・タイ語・ベトナム語・ドイツ語・英語を L1 とする日本語学習者各 13 名、計 91 名分を選出した。学習者の 78 名はすべて大学の教室環境で日本語を JFL として学ぶ学習者で、レベルは SPOT テストで有意差がないように統制し、中級後半・日本語能力試験 N2 程度と位置づけられる。各ストーリーを描写する作文に現れた主観的表現を分析した。図 1、図 2 に I-JAS の課題で使用された 5 コマ漫画「ピクニック」と 4 コマ漫画「鍵」を示す。ケンとマリが主要な登場人物で、「ピクニック」は、二人がピクニックに出かけたところ、バスケットに入っていた犬にサンドイッチを食べられてしまうストーリー、「鍵」は、ケンが鍵を忘れて家に入れなかったため梯子を使って二階から入ろうとして警官に呼び止められるが、最後はマリが起きて解決するというストーリーである。

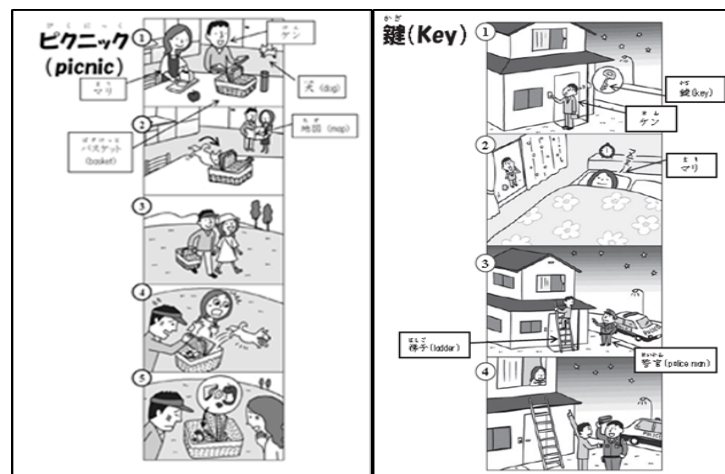


図 1 「ピクニック」

図 2 「鍵」

4. データ分析

4.1 ストーリー描写に使用された主観的表現

表1は作文中で使用されていた主な主観的表現を示す。大きく語彙的表現と文法的表現に分けられる。語彙的表現は、話者の主観的把握が表れる情意や評価に関わる語彙的な表現で、活用せずに使える副詞、単純な文末操作だけで済む形容詞・形容動詞や動詞に加え、その他として間投詞や慣用句などを含む。文法的表現は、これまでの先行研究でも多く扱われてきた視点に関わる受身・受益・移動表現などとテシマウで、主に動詞を活用して使用する表現である。

表1 主観的表現の種類

		表現の例	使用例
語彙的表現	副詞・副詞的表現	「無事に」「やっと」	ケンは無事に帰った。/ やっと入った。
	形容詞・形容動詞	「うれしい」「大変だ」	ケンはうれしかった。/ 大変だった。
	動詞	「驚く」「～と思う」	ケンは驚いた。/ しようと思った。
	その他	「なんと!」「一件落着」	なんと! 全部なくなっていた。
文法的表現	受身表現	「食べられる」	サンドイッチを犬に食べられた。
	受益表現	「～てくれる」	マリが教えてくれた。
	移動表現	「(やって)来る」	警官がやって来た。
	「テシマウ」	「食べてしまう」	犬がサンドイッチを食べてしまった。

4.2 「ピクニック」の結果

表2に「ピクニック」での語彙的表現と文法的表現のL1別の使用数を示す。

表2 「ピクニック」：語彙的表現と文法的表現使用数 (n=13)

	日本語	韓国語	中国語	タイ語	越南語	独語	英語
語彙的表現	32	30	54	17	32	44	30
文法的表現	35	14	17	22	19	18	13

L1日本語話者は語彙的表現より文法的表現の使用がやや多い(32例と35例)のに対し、日本語学習者はL1タイ語話者以外はそのL1に関わらず語彙的表現を文法的表現より多く使用している(学習者平均35例と17例)ことがわかった。

以下、L1ごとに結果を見ていく。【】内の数字はI-JASの調査協力者番号、太字は作文中で使用された語彙的・文法的表現である。

L1日本語話者の特徴と例

L1日本語話者は、【JJJ37】の例に見られるように、結末部分で「食べられてしまっていました」のような受身形に他の文法要素を組み合わせた表現を13名中12名が使用していた。そして共通して「飛び出してきました」の表現が多く(7

名)、学習者に多い「びっくりする」「残念だ」などの語彙的表現は少ない(3名)ことがわかった。1名の日本語話者のみ語彙的表現を多用しているが、2名の日本語話者は語彙的表現を全く使用していないことも明らかになった。

【JJJ37】ケンとマリは、ピクニックの場所がわからず地図で探しています。その間に犬がサンドイッチが入ったバスケットの中に入り込んでしまいました。そんなことも知らず、ケンとマリは仲良くピクニックにやってきました。お昼ご飯を食べようとバスケットを開けたら、中から犬が飛び出してきました。中に入っていたサンドイッチやリンゴを犬に食べられてしまって、ケンとマリはとてもがっかりしました。

L1 韓国語話者の特徴と例

L1 韓国語話者については、【KKR19】の例のように、語彙的表現では「びっくりしました」(5名)、文法的表現では「食べてしまった」等のテシマウの使用(7名)が多く見られた。受身形を使ったのは1名のみで、全体の約半数(6名)が文法的表現を全く使用せず語彙的表現のみで事態の主観性を表していた。

【KKR19】ケンとマリが地図を見るあいだケンとマリの犬がバスケットに入ってしまった。ケンとマリはその事実を知らなくてピクニックに行きました。ケンとマリがランチを食べよう(食べよう)とする瞬間、犬がバスケットから出てきました。マリはすごくびっくりしました。犬がバスケットの中の食べ物を全部食べてしまったので、マリとケンは失望してしまいました。

L1 中国語話者の特徴と例

L1 中国語話者は、「突然」「残念だ」「驚いた」の他、【CCH28】の例に見られるように「かわいそう」など、情意・評価を表す副詞や形容詞・形容動詞、動詞の種類と数が豊富なことが明らかになった(13名全員が最低3例以上使用)。また、全体の約半数(6名)が「食べられました」などの受身形を使用していた。文法的表現を使用していないのは2名であった。

【CCH28】ケンとマリは地図を見ていたとき、犬は弁当のバスケット(バスケット)に入りました。でも、ケンとマリはぜんぜんわかりません(わかりません)でした。彼らは公園に行った後、弁当のバスケットを開けて、犬は突然出して、びっくりしました。それで、バスケットに入れたもの(過剰使用)弁当はもう犬に食べられました。かわいそう一日ですね。

L1 タイ語話者の特徴と例

L1 タイ語話者は、【TTH49】の例のように、全体のほとんど(12名)が「入ってしまいました」「食べてしまいました」等のテシマウを使用し、約半数(6名)が受身形を使っていた。文法的表現を使用していないのは1名で、学習者の中ではタイ語話者のみに語彙的表現を使っていないケースが4名見られた。

【TTH49】それから、ピクニックをしに行くつもりです。でも、地図を見ている時に、犬はバスケットに入ってしまった。二人は山に来て、バスケットを開くと、犬が出てしまいました。ケンさんとマリさんは とてもびっくりしました。料理も全部食べられてしまいました。

L1 ベトナム語話者の特徴と例

L1 ベトナム語話者に関しては、「入ってしまった」「食べてしまいました」などのテシマウの使用が多く（8名）、他の L1 の学習者と同様に「びっくりした」（9名）等、語彙的表現の使用が多かった。【VVN27】の例に加え、「食べたい」「取りたい」などの動詞の「～たい」形、「嬉しい」「悲しい」などの形容詞が見られた。文法的表現を使用していないのは2名であった。

【VVN27】ケンさんとマリさんはピクニック（ピクニック）バスケットをつくっていました。そのまま、ある子犬がバスケットの中に入ってしまった。ケンさんとマリさんも講演へ行く前にそんなことをわかりませんでした。それから、そのペアはしばらく講演へ楽しんで歩いていきました。しかし、作っておいてランチを食べたい時にバスケットを開けると子犬は外に出してしまいました。そのペアはびっくりして、バスケットの中を見ると、ぜんぜんなものもありませんでした。

L1 ドイツ語話者の特徴と例

L1 ドイツ語話者も他の L1 話者と同様に、「びっくりしました」（8名）などの語彙的表現が多かった。【GAT09】の例の他に、「ロマンチック（な）」や「なんと！」などの独創的な表現も見られた。「食べてしまいました」などのテシマウの使用は5名であった。「出てきました」の視点表現が5名に見られたのもドイツ語話者の特徴である。また、文法的表現を使っていない学習者は3名で、受身形を使用したのは1名のみであった。

【GAT09】ケンとマリは食べ物を作っておく（作っておく）間に犬が部屋に入ってきました。その後でケンとマリは地図をみて、犬がバスケットに跳びました。ケンとマリは午後のうちへ出て散歩しました。ピクニックのバスケットを開けて犬が突然にバスケットに出てきました。ケンとマリは とてもびっくりしました。食べ物は全部食べてしまいました。

L1 英語話者の特徴と例

L1 英語話者については、【ENZ33】の例のように「びっくりしました」（6名）の語彙的表現が多く使用されていた。また、「食べてしまいました」等のテシマウの使用（6名）が多い一方で、文法的表現を全く使っていない学習者が4名いることがわかった。

【ENZ33】けんとまりはピクニックをするじゅんぴをしっています（しています）がけんとまりがちずを見ると犬がその時バスケットの中に入りました

けんともりはそれを知らずに公園に行きましたが、ケンはずバスケットをあけたら犬が出で（出て）、まりはびっくりしました。バスケットの中に見たら、食べ物は犬が全部食べてしまいました

「ピクニック」での表現の主な特徴としては、ケンとマリの視点から語られることが多いが、特異なケースとして1コマ目で学習者のみに「ピクニックに行つてほしい」などの犬の視点からの表現が見られた。また、2コマ目ではL1に関わらずテシマウの使用が多かった。2コマ目と4コマ目ではL1日本語話者には共通して（犬が）「入り込む」「飛び出す」の複合語の使用が多いが、学習者にはほとんど見られず、「突然」「びっくり」などの表現が多用されていた。さらに、5コマ目ではL1日本語話者が複数の文法要素で結末の出来事を表現しているのに対し、学習者はそれらの文法的表現が少ない代わりに、情意や評価を表すさまざまな語彙的表現を多用していた。中国語話者は「食べられました」など、他の文法要素を伴わない受身形の使用が多く、他のL1の学習者は「食べてしまいました」など、他の文法要素を伴わないテシマウを多く使っていた。ハッピーエンドでない終わり方に共通して日本語L1話者と主に中国語話者に受身形が多用されることも明らかになった。全体では、文法的表現を全く使用していない学習者がすべてのL1グループに数名ずついたのに対し、語彙的表現を全く使わないL1日本語話者が2名いることがわかった。

4.3 「鍵」の特徴と結果

表3に「鍵」での語彙的表現と文法的表現の使用数を示す。

表3 「鍵」：語彙的表現と文法的表現使用数 (n=13)

	日本語	韓国語	中国語	タイ語	越南語	独語	英語
語彙的表現	25	39	58	37	41	41	46
文法的表現	34	16	12	14	13	11	10

「ピクニック」と同様、学習者はL1に関わらず語彙的表現の使用の方が多いが、「ピクニック」よりもさらに顕著であるのがわかる。語彙的表現と文法的表現の使用が日本語話者はそれぞれ25例と34例なのに対し、学習者の平均使用数はそれぞれ43例と13例であった。

次に、L1ごとに結果を見ていく。

L1日本語話者の特徴と例

L1日本語話者はほぼ全員の12名が文法的表現である「呼び止められ」、「注意され」「質問され」などの受身形、「納得してくれた」などの受益表現、「やってきて」「おきてきて」などの移動動詞を含む複合動詞を用いていた。語彙的表現としては「仕方がない」が5名に見られた。また、結末については、【JJJ37】の「笑って納得してくれました」の他に、「事なきを得ました」「一安心」「一件落着」「疑いが晴れました」など、学習者にはない締めくくりの表現使用にバリエーションが見られた。

【JJJ37】 マリを呼んで鍵を開けてもらおうとしましたが、マリは寝ていて気付いてくれませんでした。仕方がないので、ケンはずりを使って2階から入ろうとすると、警官がやってきて呼び止められました。理由を説明すると警官は笑って納得してくれました。マリも起きてきました。

L1 韓国語話者の特徴と例

L1 韓国語話者は「ピクニック」と同様に受身形の使用が少なかった(2名)。しかし、「説明してくれて」などの授益表現の使用は5名に見られた。その一方で、例にあげた【KKD57】のように、文法的表現を使用しなかった学習者も3名見られた。【KKD57】は結末で「誤解が終わりました」を用いているが、この「誤解」という語彙は韓国語話者には4名に見られた一方、他のL1話者には見られなかった。また、L1日本語話者に使用された複合動詞「やってくる」は見られず、「警官がきて」を使用していた。結末部分では、「誤解」の他に、「幸い」「入ることができました」「大丈夫でした」のような表現が見られた。

【KKD57】 大きい声で妻およんでも、応えないです。それで梯子お使って家の中に入るつもりでしたが、警官が私お誤解しました。妻が起きて説目した後で、誤解が終わりました。

L1 中国語話者の特徴と例

L1 中国語話者は、他のL1の学習者に比べて受身形の使用が多く5名に見られた。一方、文法的表現を使わず、事態の主観性を語彙的表現のみで表現している者も5名いた。また、「大きな声で」(5名)「しかたがない」(6名)の語彙的表現を使っている学習者が多く、結末で【CCM07】に見られる「最後」「笑わっていました」の他、「みんな無事でした」「本当に良かったです」「喜んでいます」などの語彙的表現を用いていた。

【CCM07】 急に「マリ」を大声で話して、しかし、何返事がありませんでした。マリはまだ寝ってからです。ケンは「どうしよう」と思っています。突然、彼はひとつの梯子を見つけました。それに、梯子を登って、その時、ある警官がケンを見つけて、ケンは速く降りました。その後、ケンは警官に説明して、マリも頭を出できて、最後、警官は事件の過程が分かって、笑わっていました。

L1 タイ語話者の特徴と例

L1 タイ語話者は、「寝ちゃった」「忘れちゃった」などテシマウの使用が5名に見られた。文法的表現を使わず語彙的表現のみで事態の主観性を表している者は3名いた。【TTH24】のように「泥棒だと思いました」と警官の視点での表現を使用した学習者が6名いた。結末の表現としては、【TTH24】の「真意を警官に説明しました」の他、「入ることができました」「ケンを信じました」などがあつた。

【TTH24】それで、ケン家は家に帰ると、**大声で**マリを呼びました。しかし、マリは寝ているので、聞こえなかった。それで、ケンは梯子を使って、家の窓に入りました。しかし、ある警官はケンが梯子を使って、家の窓に入るのを見て、**泥棒だ**と思いました。それで、ケンを呼んで、聞きました。マリはおきてから、ケンの**真意**を警官に説明しました。それで、警官は分かりました。

L1 ベトナム語話者の特徴と例

L1 ベトナム語話者は、「(警官に) 見られました」と受身形を用いて出来事を表現した者が3名いたが、文法的表現を使わず、事態の主観性を語彙的表現のみで表している者は4名であった。【VVN09】のようにセリフとして語彙的表現を用いて表している者もいた。結末では、上記の他「理解しました」「全部のことは大丈夫でした」のような表現が使われていた。

【VVN09】仕事を終わって家へ帰りました。その時は12時でした。マリさんは寝ましたから。ケンさんをケンさんに**大きい声で**呼ばれましたが、彼女は聞こえませんでした。それから、ケンさんは梯子を使って家の二階に入ると**思いました**。警官は見て、ケンさんに聞きました。ケンさんは警官に「私はうちの鍵を持っていないから」だと説明しました。警官は「なるほど」だと言いました。

L1 ドイツ語話者の特徴と例

L1 ドイツ語話者の文法的表現のほとんどが「警官がきました」(9名)であった。他のL1話者と比べ、一番「くる」の視点表現の使用が多かったと言える。文法的表現を使わず語彙的表現のみで表している者は3名であった。その中の一人【GDE13】は、結末として「契機を終わることが出来ます」のような表現を使っていた。

【GDE13】ケンが仕事から、つかれて帰ります。でも、そのときマリはちょうどぐっすりです。まず、ケンは外から窓に呼びますが、マリがまだ寝ています。では、ケンがアイデア(アイデア)があります。彼は庭から梯子を取って来ます。その梯子が窓の**近く**に取ります。梯子の登る時に**突然**警官も角から曲がってケンを見ます。警官はケンを警告するつもりですが、その時、マリが起きます。マリはこの**契機**を終わることが出来ます。

L1 英語話者の特徴と例

L1 英語話者は、語彙的表現のみで表現している人数が6名と、他のL1の学習者の中では最も多かった。また、他の学習者には多く見られた「警官がきました」という表現も全く見られなかった。結末では、「大丈夫でした」「無事に」「よかった」「笑って」などが見られた。

【EGB23】ケン家は家の外から「マリ！」と呼んでいました。でも、返事はありませんでした。マリは寝ていました。そして、ケンのはしごを見ました。ケンはそのはしごを使って、マリの部屋に上りました。警官は近く道を回った時、ケンを見ました。警官はケンの所へ行って、ケンのことをどろぼうと思っていました。すぐにマリが起きました。マリが警官にケンのことを説明して、大丈夫でした。

「鍵」での表現の特徴をまとめると、1コマ目ではL1日本語話者は「大声で」を用いるが、学習者は「大きな声で」使用が多く、2コマ目と3コマ目ではL1日本語話者はケンの視点から受益表現を受見形を使って語られることが多いが、学習者は、語彙的表現や能動態を使ってマリや警官の視点から語られることも多いことがわかった。また、L1日本語話者に4例見られた「やってくる」という複合語は学習者には見られなかった。4コマ目のハッピーエンドの伝え方には、語彙的表現のバリエーションが多く、個人差も大きいことがわかった。結末部では、L1日本語話者には慣用句など学習者に見られない表現も多かったが、学習者も知っている表現を使って様々な創意工夫が見られた。さらに、文法的表現を使用していない学習者がすべてのL1グループに数名ずついる一方で、語彙的表現を使用しないL1日本語話者が1名いることがわかった。

4.4 全体の結果

表4に「ピクニック」と「鍵」の語彙的表現と文法的表現の合計を示す。

表4 「ピクニック」「鍵」合計：語彙的表現と文法的表現使用数 (n=13)

	日本語	韓国語	中国語	タイ語	越南語	独語	英語
語彙的表現	57	69	112	54	73	85	76
文法的表現	69	30	29	36	32	29	23

L1日本語話者は語彙的表現より文法的表現の使用が多い（それぞれ57例と69例）のに対し、日本語学習者はそのL1にかかわらず、逆に語彙的表現の使用が非常に多く文法的表現が非常に少ない（学習者平均それぞれ78例と30例）ことが明らかになった。

5. 考察と結論

分析の結果から、日本語学習者には視点を表す受身形や受益表現などの文法的表現の代わりに、情意や評価を示す副詞・形容詞・形容動詞・動詞などの語彙的な表現を使用する中間言語が存在する可能性がさらに明らかになったと言える。日本語学習者は使える表現を総動員しながら、語彙的表現で主観的把握を豊かに創造していると考えられる。語彙的な表現にL1による特徴的な違いがあるものもあり、言語転移の可能性が考えられるが、これについてはさらに対照言語学的な検討が必要である。

また本研究で扱ったストーリーの種類として、「ピクニック」に比べ「鍵」のストーリー描写に NS と NNS の違いがより顕著に見られたが、それには、「ピクニック」と「鍵」というハッピーエンドではないストーリーと、ハッピーエンドのストーリーの違いが関係しているのではないかと考えられる。ハッピーエンドではない場合には、「食べられてしまっていた」のように受身を使った文法的表現が多く使われるが、ハッピーエンドは L1 に関わらず語彙的表現で語られることが多い。

二種類のストーリーについて産出された作文データの今回の分析により、異なった L1 の日本語学習者が事態を主観的に把握する際の中間言語の特徴を、語彙的表現と文法的表現の観点からより具体的にみる事ができたのではないかと考える。

追記

本研究は、科学研究費助成研究基盤 A「海外連携による日本語学習者コーパスの構築および言語習得と教育への応用研究」（課題番号：16H0193，研究代表者：迫田久美子）に関する研究成果の一部である。

参考文献

- 池上嘉彦（2006）「〈主観的把握〉とは何かー日本語母語話者における〈好まれる言い回し〉」『月刊言語』35/5, 20-27.
- 奥野由紀子（2018）「日本語学習者に共通して見られる現象と母語による違いーI-JAS のストーリー描写課題の分析よりー」『日本語教育連絡会議 2017 論文集』67-75.
- 奥野由紀子・呉佳穎・村田裕美子（2019）「日本語学習者の能動態と受動態の使用傾向にみられる母語による違いー中国語とドイツ語での語りの比較からー」『日本語研究』37, 79-93.
- 国立国語研究所（2020）『多言語母語の日本語学習者横断コーパス（I-JAS）』
<https://chunagon.ninjal.ac.jp/static/ijas/about.html>. (2020年12月10日)
- 南雅彦（2018）「日本語学習者の『語り』から見えてくる習熟度ー語彙・時制・視点ー」『第4回学習者コーパス・ワークショップ&シンポジウム：第二言語習得における語彙の役割予稿集』10-19.
- 矢吹ソウ典子（2017）「日本語学習者の談話における視点表現ー日本語母語話者との比較からー」『ジャーナル CAJLE』18, 90-112.
- 矢吹ソウ典子・奥野由紀子（2020）「日本語学習者による事態把握の主観性ーI-JAS のストーリー描写における情意・評価表現の分析ー」『NINJAL 国際シンポジウム：第11回日本語実用言語学国際会議予稿集』40-43.
- Ikegami, Y. (2016). Subject-object contrast (shukaku-tairitsu) and subject-object merger (shukaku-gouitsu) in “thinking for speaking”: A typology of the speaker’s preferred stances of construal across languages and its implications for language teaching. In K. Kabata & K. Toratani (Eds.), *Cognitive-functional approaches to the study of Japanese as a second language* (pp. 301–318). Boston & Berlin: Mouton de Gruyter.